

# 一般演題

## 一般演題 I 消化管, 肝, 網内系, 膵 (1~13)

### 1. 膵シンチフォトの改良と臨床的応用

金沢大学 放射線科 ○平木辰之助  
核医学科 久田 欣一

膵シンチフォト像を撮像する際に従来よりすすめられていた前処置なしで、われわれが提唱した5度仰角臥位撮像法により<sup>75</sup>Se-Selenomethionineの使用量を110~120 $\mu$ Ciと以前の1/2以下でも充分鮮明な膵形態の描画が可能となった。

立位膵シンチフォト像を追加することにより術前に外科の手術適応の限界を指摘しえた症例や閉塞性黄疸を主訴とする症例の診断上の問題点を明らかにし、膵腫瘍の放射線治療上 Pancreas Scintiphoto Simulatingの必要性を強調したい。

### 2. Scinticameraの臨床的応用 (第3報)

#### 膵疾患への応用

癌研究会附属病院 内科 金 孟和  
放射線科 津屋 旭

1967年9月私達の病院にNuclear Chicago製のAnger型Scinticameraが設備され、今日まで約170例におよぶ膵scinticamera応用例について、

- 1) 圧排, 変位, 著明な所見を示した症例の検討。
- 2) 手術および剖検によって膵癌と確認しえた膵scinticamera patternの類型化およびangiogramとの比較。
- 3) 膵影の前処置による影響を窺うため現在行なわれている膵機能検査pancreozymin-secretin testに<sup>75</sup>Se-methionineを処置し、膵液中に排泄されるRIと同時に描出された膵影への影響を報告したい。

### 3. 膵臓のRI診断に関する研究 (第2報)

神戸大学 放射線科 阪東 昭政 西畑 次郎

目的: テトラヨード系色素である<sup>131</sup>I Rose Bengal, <sup>131</sup>I Iodiosine B等を腹腔投与すると、他臓器に比し膵に著しい集積を見ることはすでに報じたが、これを臨床に応用するに当たり、更により一層良好な像をうるための手段を講じること、および膵への摂取経路をより詳細に追求することを試みた。

方法: 色素剤としては、<sup>131</sup>I Rose Bengal, <sup>125</sup>I Rose Bengal等の核種を用いた。リンパ行性の摂取を助けるためにはリンパ環流を増進するエスベリベン等を併用し、物理化学的摂取を助けるためには界面活性剤等を併用した。一方、摂取経路追求のためにはマイクロラジオオートグラム等の方法を用いた。

結果: Rose Bengal投与時に補助剤を用いることにより、膵への摂取を高めたり、他の臓器の摂取量との差を著しくすることができた。また、膵への摂取経路も、解明への手がかりをえた。

### 4. 中鎖脂肪と長鎖脂肪の腸管吸収の比較

京府医大 増田内科 増田 正典 細田 四郎  
十倉 保宣 吉田 譲  
○加嶋 敬 馬場 忠雄  
中島 一益 松井 喜彦

ラットを用い中鎖脂肪(MCT)の消化吸収状態を長鎖脂肪(LCT)のそれと比較検討した。

雄ラットに胆管結紮、膵管結紮あるいは両者の結紮を行ない、<sup>14</sup>Cで標識したsodium octanoate, trioctanoic, tripalmitinを投与し吸収率を調べると共に、腸内容、腸粘膜中の脂質を分析した。またeverted sacを作製し上記の標識化合物あるいは標識グリセロールを用い粘膜中の各脂質への取り込みを調べた。さらに粘膜ホモジェネートを作製し各脂質の分解、合成を調べた。

吸収率は中鎖脂肪酸(MCFA), MCT, LCTの順によく、膵液欠如ではその障害が最も著明であった。MCT投与の場合粘膜中および門脈中には主として脂肪酸(FA)として存在しMCTとしてはみられなかった。MCTは吸収後FA部分がLCTのLCFA部分と一部置き変わることが示唆された。腸粘膜中での中性脂肪生成はLCFAの場合にはみられたが、MCFAからのMCTの生成はほとんどみられなかった。

### 5. 各種脂肪酸の吸収および動態

弘前大学 第一内科

佐藤 東 伊藤 隆 鹿野 直勝  
富田 重照 坂本 要一 大野 虫嗣